

下和田地区の紹介

温泉区と、鉄道(線路)を挟んで山沿いにある集落(地区)が下和田区です。ここには歴史のある「売布(めふ)神社」が静かに祀られています。古における「木津庄」各村の氏神であったと云います。本殿は、寛文9年(1669年)に建築された一間社流造のこけら葺建物で、栗や松、檜など多種多様な材料が使用されていますが、身舎(おもや)柱や組物、向拝(こうはい)廻りなど特に目を引く箇所には檜(けやき)が使用されており京都府指定文化財に指定されています。また、「当本殿は装飾的要素が少なく、木太い古風な建物と言え、装飾化が進む以前の作例と捉えられる。棟札により造営年代・造営大工等も判明しており、丹後地方における一七世紀中期に遡る唯一の神社本殿遺構として、極めて貴重である。」と市では紹介しています。この売布神社で執り行われます毎年の秋祭りは、過去においては大変賑やかで多くの近隣住民が集まり、その参拝客でごった返したと云います。(60代区民の方のお話)

地区の情報
世帯数： 36 世帯
人口： 115 人
隣組数： 4 組



この道の山の向こうに、日和田の集落がありました。



この神社の境内ではその昔、日和田地区から旧木津小学校へ(今の60代以上の方)登下校する児童たちが休憩、雨やどり、道草遊び等をした場所だったと云います。それにしても当時の子供たちがこんな山道を歩いて通ったなんて、熊が出没する現在ではとても考えられることはありません。そして、雨の降る日は、泥道(当時)となり、汚れた足をこの場所にあった池の水で洗い、学校に向かったと云い、思い出の神社だとお話します(60代女性の方)



中立区 丘より下和田区を望む

写真中央の左右に通る線路の向こう、山裾に広がる集落が下和田地区です。

赤線枠の範囲